

あすかの  
 日常生活紹介  
 久保 明穂

あすかは、入所者10名(横地分類A1-Cが2名、A1が8名)が生活しているゾーンです。利用者一人ひとりの僅かな表情の変化や身体の動きをみながら、何に対して注目しているのかを感じとり個別にあった活動を提供しています。

Aさん(横地分類A1)は、職員の声かけに対して目をキョロキョロと動かしたり、視線を職員の方へ向けたりします。耳を澄ませて声を聞こうとする様子もみられます。手遊び歌に合わせ歌いながら腕を上下に優しくさすると、目を見つめたりを繰り返します。声や触れられている事を感じているようです。絵本の活動では、読むことを伝えると、これから何かが始まる事を感じているようで、口を開けたり、すぼめたりします。絵本を読んでいる間は、目が一点を見つめる時間が長くなります。ページをめくると目をキョロキョロ動かし、ページの変化を感じているようです。「おしまい」で絵本を

閉じると、「ふう」と力が抜けます。絵本を集中して聞いており、絵本が終わったことを感じているのだと思います。



Bさん(横地分類A1)は、以前、「レインスティック」(筒状のもので、中に小豆等が入っており縦にすると雨音に似た音が出る)の音を提供していたときがありました。音が鳴ると、目を大きく開け音を良く聞いています。

Bさんの活動では、木の優しい音が届きやすいのではないかと考え、木魚を提供しています。「トントン」と木魚を鳴らすと、視線は一点を見つめます。音に注目し、聞いています。途中で音を止めると、瞬きが多くなり、目が左右に動きます。再度音を鳴らすと、動いていた目がじつと一点を見つめられます。木魚の音に関心が向いており集

中して聞いているのだと思います。今後、利用者一人ひとりにあった活動を提供し、日常が充実したものとなるよう努めていきたいと思っています。

はるか  
 日常生活紹介  
 仲山 利恵

はるかは、入所者15名(横地分類A1が7名、A4が2名、B1が1名、B2が1名、B3が1名、B4が1名、B5が1名、B6が1名)のゾーンです。

Aさん(横地分類A4)は、木で出来た平らなお皿を回し、勢いがなくなってお皿の回り方が変わっていく様子を見て聞いて楽しむ活動を行っています。



「よく見ていてくださいね」と声をかけ、木皿に手をかけると、職員の手元をよく見て始まる様子を期待して待っています。職員が手首を捻って木皿を勢いよく回します。木皿が、テーブルの上でカタカタと音を立てて回っていくと、フツと職員の顔を見て微笑みます。職員の顔を見ながら、木皿の音をよく聞いています。回る勢いが弱まり、木皿が傾いていくと、カタカタという音から、徐々にグワングワンと音に変化していきます。グワングワンと鳴り始めると、Aさんは肩をすぼめるようにして体に入っていきます。木皿の音が変わっていく様子に集中しています。最後、木皿が止まってしまいう瞬間のグワングワンという音が聞こえると、「アハハハ」と吹き出して笑いだしました。木皿の音が変わっていく様子が面白いようです。木皿が止まり、音が鳴り止んでも、しばらく柔らかい良い表情がみられます。楽しい気持ちが続いているようです。「もう1回やりませぬ」と再び職員が木皿に手をかけると、職員の手元をよく見て始まる様子に集中します。2回目には、お皿が傾きだしたグワンという音を聞き、この後音が変わっ

ていくことを予測し、笑いが込み上げてくるようで、クスクス笑いながら音が変わっていく様子を聞いて楽しんでいく様子が見られました。



Bさん(横地分類A1)は、職員の歌いかけに合わせてタツチングされることを期待して楽しむ活動を行っています。

「はじめませぬ」と声をかけ、ゆっくりやさしく語りかけるように「木こりのじいさん」を歌いかけます。「ぎったんばっこん」を歌いかけるときは、手拍子をとったりタツチはまだしません。Bさんは目を開いて、職員を見ています。「木を切つてえ・・・」と歌いかけると、目を大きく見開き、両上肢・両肩に力が入ります。気持ちが盛り上がりつつある様子が見え、最後「ドスン」と歌いかけながら、やさしく